

裏面白紙

副議長了知

書記官長

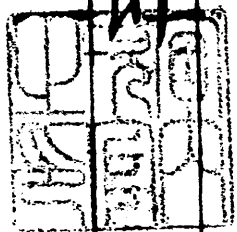
書記官

本書受領當日
審査委員會
席、副議長、
同官、口頭報告人

大正十年四月十九日受
第一四二號

大正十年四月十九日

宮内次官関屋貞三郎



樞密院書記官長三上英治殿

通牒

天皇陛下御容體本日別紙之通發表
可相成候間御承知相成度

宮内省

八

陛下ハ昨年春以來約一年間御靜養遊ハサレ御容
體ハ隨時變化アルヲ免レザレドモ御榮養其他御
身體ノ御模様ハ段々御宜敷方ニ向ハサレ御尿
中ノ糖分並ニ坐骨神經痛ハ御輕快アラサレ
御寢食御宜敷御運動ハ日々遊バサレ階段ノ御
昇降ニハ尚側近者ノ扶助ヲ要ササレルレドモ御
平常ノ御態度ニ弛緩ヲ來スコトハ殆ント之ナキ
様拜セラル唯御發語ノ障害ハ依然トシテ特
ニ御心身幾分ノ御緊張ヲ要セラル、場合ニハ

御難儀ニ伺ハル

右ノ如キ御狀態ナルヲ以テ萬機ヲ親裁アラセ
ラル、外ハ依然御靜養ヲ主トシ當分御儀式等
ニ臨御遊バサレザル筈